

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成23年9月1日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470204201		
法人名	医療法人社団 林医院		
事業所名	グループホーム 桐壺の家		
所在地	広島市西区己斐中2-12-21 (電話)		
自己評価作成日	平成23年9月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3470204201&SCD=320
------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成23年9月17日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ルネサンス風の建物の中で、明るく清潔で落ち着いた雰囲気大切にしており、入居者一人ひとりが、その人らしい生活を送れるよう支援しております。地域行事等への参加を積極的に行っており、地域へとけ込んで生活が出来るよう支援しています。居室からは外の日差しが入り、明るく開放的です。管理栄養士による、栄養バランスの良い手作りの食事を提供しており、医師による週3回の回診や看護師もおり、心も体も快適で安心した生活を送る事が出来ます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<ul style="list-style-type: none">・法人組織の理念を具体化するために、全職員が話し合って目標を作成し、実践しながら利用者、職員等みんなが笑顔で暮らし続ける家庭的な雰囲気を作っている。・近隣の事業所と連携しながら積極的に地域との交流に取り組んでおり、多くの近隣の人たちから声かけや行事へのお誘いをいただいている。・常日頃から利用者の方々の出来ることや要望を聴き取りながら、実際に動いていただくことで身体的能力を維持し、季節の行事等にも利用者に役割を持ってもらうことで生活の質を高めている。
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人全体の理念は、事業所で働く職員全員が理念の理解を深める為。毎朝朝礼で読み上げている。また、事業所独自の理念を作り、目標を持って取り組んでいる。	全職員が話し合っって利用者や家族の方にもわかりやすいように、法人の理念に沿って目標を作成し、地域社会から信頼されるホームづくりと、日々のサービスに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内行事や町内清掃等に参加し、地域の方とコミュニケーションが取っている。散歩などでお会いした際には、挨拶を交わすなど、馴染みの関係が築けている。	常日頃から地域の行事には利用者と職員がともに参加し、顔なじみの関係づくりとホームの役割を啓発している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	勉強会を開き、認知症高齢者に対して地域の方々の理解を促し、入居されている方だけでなく地域の方にも声かけをして安心して頂けるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	これまでの会議で出た事項のその後の報告をする様にしている。報告や情報のみでなく、意見を頂き、サービス向上に具体的に活かすことで、改善への取り組みを行っている。	運営推進会議には、家族や地域の方及び地域包括支援センター職員などが参加をして、意見交換や情報交換を行っている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事業所は、介護保険事業者指導係や区役所の介護保険担当者等に運営や現場の苦情を積極的に伝える為、入居者の介護保険の手続きやケアの問題・記録等を話し合い情報を共有しながら共に取り組んでいる。	市の担当者とはサービス実施内容の報告や情報・意見交換などの連携に努め、サービスの質の向上に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>利用者が受ける身体的・精神的障害について職員の全員が正しく理解できるように勉強会等を通じて取り組んでいる。見守りを徹底し、外出しそうな様子が見られたら、制止するのではなくさりげなく声をかけたり、一緒についていく等安全面にも配慮している。また、セコムを導入しており、目の届かない場所でも察知でき、鍵をかけない自然な暮らしを支援している。</p>	<p>高齢者虐待や、身体拘束についての事業所内研修を実施し理解を深めると共に、拘束をしない支援を実践している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止についての勉強会を開き、職員全員が理解し、防止に努めている。管理者は、職員の疲労やストレスの軽減に気を配る様している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>対応が必要な場合には、随時、職員に説明し利用者の支援に結び付けている。また、勉強会や外部研修の機会には参加する等し理解を深めるようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居に向け、見学に来て頂き実際の様子を直接見て頂いている。契約の際には、詳しく説明をし、同意を得るようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族には、毎月の手紙や訪問時、利用者には日々の生活の中で意見や要望を集め、何でも言ってもらえるような雰囲気作りにも気を付けている。出された意見や要望はミーティングで話し合う等し、反映させている。また、相談窓口も設置されている。</p>	<p>日々の支援の中で利用者へ直接、意見や要望を聞いている。家族の面会時や運営推進会議等でも、管理者や職員が意見等を聞く機会となっており、伺った意見等はミーティング等で話し合い、日々の支援に活かしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>日頃より、コミュニケーションを図り、職員から意見や気づきを聞き出すようにしている。また、ミーティングや勉強会で発表の場を設けている。管理者を通じて代表者へ随時報告をし、運営に関する事項について決定がなされている。</p>	<p>ミーティングの機会等を捉えて、職員からの意見を聞いている。管理者は職員と日頃のコミュニケーションが図れるように、話しやすい雰囲気作りをし、共に支援の充実を目指すよう努めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>疲労やストレスの要因について気を配り、心身を休められるよう休憩場所や時間を設けている。また、職員の間関係を把握し、円滑に業務が進められるよう努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員の資格取得に向けた支援を行っている。また、職員の質の確保、向上に向けて事業所外で開催される研修になるべく多くの職員が受講できるようにしている。また、研修後はミーティングを行い、報告書を全ての職員が閲覧できるようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>勉強会や研修に参加し、同業者との意見交換や情報収集を行っている。交流や連携を図り、ケアに活かしている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>面接時や見学時に話を聞き、心身の状態や本人の思いに向き合っている。これまでの既往歴や生活歴等を職員全員で把握し、職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前に家族と話し、家族が求めている事や不安に思っている事を受け止め関係が築けるようしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族の思い、状況を確認し、出来る限りの対応が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一方的なサービスにならず、人生の先輩であるという思いを職員が共有している。支援する側・される側という意識を持たず協働するしながら生活が出来るよう支援している。食後の片づけやゴミ集め、洗濯など無理なく出来ることをされる中で、生活の技などを教わる場面もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は、家族に寄り添いながら、日頃の状態をこまめに報告するとともに、本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援しているという事を心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	これまでの生活の延長線上であるよう、手紙や電話等を利用して関係が継続出来るよう支援している。美容院やお墓参りなど続けておられる入居者もいる。	馴染みのある場所、地域に家族や職員と一緒に外出しながら関係継続に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となり、孤立してしまう状況を作らず暮らしを楽しめるよう支援している。また、利用者同士の関係性について情報を共有できるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用が終了した後も相談窓口を作り、その後の支援に応じる姿勢を示している。これまでの生活の継続性が損なわれないように、生活環境や支援内容、注意が必要な点について情報提供し連携を取っている。		
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族や本人を交えてアセスメントを行い、また、思いや意思を日々の言動や表情から汲み取るように心掛けている。日頃からコミュニケーションを密にし、家族や関係者からも情報を得るようにしている。	日々の支援の中で、どんなささいな利用者の意向や希望も見逃さない体制のもとで把握し、出された意見等は本人本位で話し合い、全職員で意向や希望に沿うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	プライバシーに配慮しながら、介護計画などを活用し、本人や家族の協力を得てこれまでの暮らしが出来るように支援している。本人や家族から聞き取りを行い、前利用の病院や施設などからの情報も含め、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	カンファレンスシートをいつでも見やすい場所に置いておき、利用者一人ひとりの生活リズムが把握できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人や家族の思いや意見を聞き、意向を中心にアセスメントを行い、職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。その状況に応じて見直しも行っており、ご家族が意見や思い、希望などが言いやすい雰囲気作りにも心掛けている。</p>	<p>ケアマネージャーを中心に、本人・家族・かかりつけ医・職員でカンファレンスを行い、その人らしさの見えるケアプラン作成に努めている。</p> <p>また、支援の項目や記録の仕方を工夫し、見直し、修正を行うことで内容の記録の仕方を工夫し、変更を行うことで内容をより充実させ、支援の向上に努めている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の申し送りにて入居者の変化を確認し、その都度記録している。申し送りノートを活用し、重要事項は全て記載するようにし、職員間で共有しながらケアに活かしている。また、定期的カンファレンス会議を行い、介護計画に反映している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>利用者や家族の要望に向き合い、対応している。その方の状態や状況に応じて同系列の老健や協力病院への転居が出来る等の対応をしている。また、ご家族が宿泊されたり、食事の提供も行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>利用者が安心して地域で暮らし続けられるよう各機関へ運営推進会議の参加を促し、意見交換が出来るよう支援している。町内の美容院やスーパーを利用する等して関係が持てるようしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人もしくは家族の希望する、医療機関で受診している。医師の訪問診療、24時間受け入れの可能な協力病院（舟入病院）、各医療機関関係者（外科、内科、皮膚科、歯科）により、適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	<p>契約時に家族の希望を聞いて、かかりつけ医を決めている。</p> <p>緊急時の対応についても、詳細に説明して納得のうえで利用開始してもらっている。</p> <p>また、協力医療機関との連携により、いつでも適切な医療が受けられる支援が行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションとの契約により、日常の健康面や医療面について対応、相談、助言を行ってもらっている。職員とも情報を共有し対応するとともに、薬や医療面での勉強会も開き、協働体制を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、本人のストレスや負担を軽減させるよう努めている。また、家族や医療機関と相談しながらスムーズな退院につながるよう退院計画を本人・家族・スタッフで話し合い支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居と同時に家族・医師・職員等、チーム全体で話し合いを行っている。事業所で対応が可能な事、困難な事、不安な事等を提携病院や協力病院と情報を交換しながら最期まで個人の尊厳を維持できるように支援している。	重度化された場合は、受診時や退院時に家族、医師、職員での話し合いの場をもち、事業所として対応しうる最善の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事業所独自のマニュアルに基づき、当理事長林Dr、西野Dr、看護師の指示や指導の基、全職員が対応できるように定期的に学ぶ機会も設け、緊急時に対応できる技術を身に付けるよう取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力を得て、年2回、利用者と共に防災訓練を行っており、避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練や点検を行なっている。また、町内会を通じて火災が起きたときの協力を得ている。	火災訓練は消防署の協力を得て、定期的に行っている。地域との協力体制は、運営推進会議等をつうじて依頼しており、理解が得られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	介助の際には、丁寧な言葉掛けを行い、本人の気持ちを考えてさりげないケアを心がけ、羞恥心に配慮して本人の尊厳を維持できるよう努めている。また、個人情報の保護について、外部に漏れないようにマニュアルに則り、全職員が把握している。	職員の声かけや対応は丁寧であり、利用者一人ひとりが笑顔になるような対応が工夫されている。 入浴時や排泄の介助時は、特に配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の希望や好みを把握し、意思表示が困難な場合でも表情や反応から思いを理解し、個々の能力に合わせた説明を行いながら、希望や願いを意図的に引き出すことが出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切に、その日、その時の本人の気持ちを汲み取るよう努めている。出来るだけ、個人生のある支援や本人の希望を聞いたり、相談したりしながら過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者の個性や希望、好みを尊重し、季節感や清潔感のあるその人らしいおしゃれが出来るよう支援している。毎月行なっている理美容では、カットやカラーもしてもらえるようしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	定期的にアンケートを取り、好みの食べ物や季節に合った食事を提供しており、利用者とともに味わいながら食事が楽しめるよう支援している。また、調理の下準備や食後の片付けも利用者と一緒にしている。	食事の準備や片付け等には無理強いしないで、楽しく参加してもらうよう気が配られている。 食事は職員も利用者と一緒に食べており、会話を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握し、その日の体調に合わせて、管理栄養士を中心に、主食をお粥にしたり、副食を食べやすく刻んだりと対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	イソジンを使ってのうがいと毎食後の歯磨き、義歯洗浄等の口腔の清潔保持は日常的に支援している。また、利用者によっては、ガーゼやスポンジを使用して口腔ケアを行い、肺炎の防止に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの身体状況に応じて出来る所は見守り、自尊心に配慮して出来ない所はさりげなくカバーできるように支援している。入居者の言動などからも排泄のサインを読み取り、さりげない誘導もできるよう心掛けている。	個人別排泄状況を詳細に把握し、個別に声のかけ方や介助方法も細かく記録されている。 職員が同じ方法で介助を行うことで、利用者が安心でき、失敗が少なくなるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々の便秘の原因を探り、食事、排泄、活動状況等を見直し、家族とも相談しながら自然排便を促すよう働きかけている。また、必要であれば無理のない下剤や浣腸等の検討もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	職員のペースに合わせず、利用者の希望に沿った曜日、時間帯で入浴を支援している。入浴前には、バイタルチェックを行い、安全に楽しみな時間となるように健康面での配慮にも気を配っている。また、不安や恐怖心を持たない見守りや介助に心掛けている。	本人と相談し、希望に添えるようにしている。 皮膚の状態・体調には細心の注意を払い、シャワー浴・足浴対応は臨機応変に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	今までの生活習慣等を検討しながら、日中活動を促し、生活リズムが整えるように努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望等にも配慮し、ゆっくりと休息や睡眠が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	理事長、主治医、看護師による薬についての勉強会を行ない、副作用、用法、用量について理解し、職員が個々の内服薬を把握できるようにファイルにて管理している。また、服薬時には、本人に手渡しをしきちんと服用出来ているかの確認を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	潜在している記憶や出来る力を最大限に活かして自分らしく暮らせるように一人ひとりの生活歴を把握し、経験や知恵を発揮できる場面を作っている。ボランティア活動も取り入れ、散歩や園芸、季節ごとの行事等で楽しめる時間も作っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出が困難と決めつけず、重度の方でも外出が出来るように介護タクシーを利用する等、家族の協力も頂きながら希望に沿った支援を行なっている。	利用者一人ひとりの希望を聞きながら、近隣の商店に買い物に出かけたり、散歩を楽しんでいる。 外出を好まない利用者にも声かけを欠かさず行って、定期的に出かけるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	その方の希望や力に応じて家族と相談しながら少額でも所持金を持って頂いたり、買い物の際には、本人が支払えるように支援する等、お金がある安心感や満足感を感じて頂けるよう支援し、社会性の維持に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	日常の手紙、暑中見舞いを出すなどの支援を行っており、プライバシーに配慮しながら希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるように支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関には、季節に合った花や飾りを取り入れ、入り易い雰囲気になっている。リビングは風通しがよく、外の景色が見えて季節を感じる事も出来る。台所は利用者にとって安全に使用できるようになっており、トイレも車椅子でも出入りしやすい広さになっている。照明は蛍光色を使わず、落ち着きのある空間づくりに配慮している。	事業所全体の空調や換気は整備されており、利用者の生活に配慮が行き届いた共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室で一人になれる空間と、フロアで他の利用者と自由に団欒出来るようソファや椅子を置き、気の合う入居者同士がくつろげる空間を設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が落ち着いて過ごせるように、使い慣れた馴染みの物を持ち込んで頂き、本人や家族と相談しながらその人らしく居心地の良い居室作りを行なっている。	自宅から使い慣れたものを持参していただき、自宅の部屋と同じような配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手摺や階段に滑り止め等を設置しており、利用者一人ひとりの身体状態に合わせて危険の防止や自分の力を活かして動けるように物の配置に配慮している。また、状態が変わり混乱が生じた時は話し合いを行い、必要に応じてポータブルを設置するなどして対策をしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○ ●ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ●毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ●ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ●ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○ ●利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ●ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ●ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ●ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム桐壺の家

作成日 平成23年10月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	内部研修は行っているが、外部への研修に出る機会が少ない	外部研修の参加	それぞれが得意な分野や興味のある分野を活かし、職員それぞれが研修に出れる機会を作る。	3か月
2	35	施設内での消防訓練は行っているが、地域の方を交えての訓練を今後実施していきたい	災害時の地域との協力体制の強化	消防訓練と運営推進会議を合同に実施する	3か月
3	49	外出支援についての協力体制の確立	外出支援への理解を得られるように努める	毎月の手紙や通信等でご家族へ伝え、活動内容を知って頂く	3か月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。